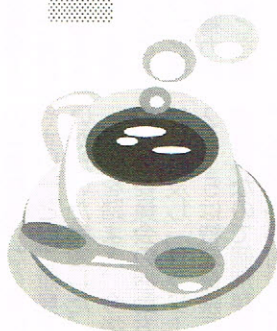


ホッ!!と
ひと息

ティータイム



■新型コロナウイルスによる代償

新型コロナウイルス

新型コロナウイルス感染症が流行したことで世界は空気に注目浴びるようになった。「この部屋は人混みで空気がよどんでいるから食べに行くのはよそう」「大声を出して遊ぶコンサートに行くのは控えよう」それらに行くか行かないかの指標は、人の感覚によって個々で判断している傾向がある。その判断指標材料は、マスク、インターネットなどの

情報からコロナウイルス感染症しやすい場所を避けているように思われる。

私自身も、映画、観劇に行くことはなくなり、公園での散歩、庭の手入れ、車で移動し短時間で買物に変化している。また新幹線ですべて済ませている。会議、セミナー、イベントはすっかり移行している。その理由に移動中の不安がなかなかぬぐえないのが現状で、新幹線の椅子、

電車の手すり、トイレの蓋など室内環境の平面での衛生が気になっている。コロナウイルスが流行する前より、どの業者も薬剤や洗剤を塗布して汚れを拭き取る対策が強化されていると思うが、個人はまだ心配である。今後解決してほしい分野は空気環境である。今回の記事は、新しい視点の感染症対策を私なりに提案する。

■室内環境衛生基準

建築物衛生法で定める室内環境基準は、二酸化炭素1000ppm以下、浮遊粉塵0・15μg/m以下、ホルムアルデヒド0・08ppm以下に保つと室内は衛生的と言える。2003年建築基準法改正で2時間に1回室内の空気を交換するために「換気システム」を付けることが前提となっている。これらはシックハウ

ス対策の位置づけだったのが、現在その換気システムが新型コロナウイルス感染症予防にも繋がっている。ただ、これは人が排出する二酸化炭素

を下げる目的でないため、2時間に1回の空気の入れ替えが感染症予防とはいえない。施設によっては、第一種機械換気、第二種機械換気があり、第一種の方が、外気と内気の交換が理想の形であるが、第三種だと外気

を下げないため、2時間に1回の空気の入れ替えが感染症予防とはいえない。施設によっては、第一種機械換気、第二種機械換気があり、第一種の方が、外気と内気の交換が理想の形であるが、第三種だと外気

を下げないため、2時間に1回の空気の入れ替えが感染症予防とはいえない。施設によっては、第一種機械換気、第二種機械換気があり、第一種の方が、外気と内気の交換が理想の形であるが、第三種だと外気

を下げないため、2時間に1回の空気の入れ替えが感染症予防とはいえない。施設によっては、第一種機械換気、第二種機械換気があり、第一種の方が、外気と内気の交換が理想の形であるが、第三種だと外気

を下げないため、2時間に1回の空気の入れ替えが感染症予防とはいえない。施設によっては、第一種機械換気、第二種機械換気があり、第一種の方が、外気と内気の交換が理想の形であるが、第三種だと外気

『ITセンサーで商業施設の集客を

加藤 美奈子(春日井環境アレルギー対策センター)

と内気量が偏っているため、人の二酸化炭素量を下げることが難しい状態である。

深い揭示物がある。入口のレジ付近に「4分19秒で全体の空気が入れ替わっています」ロースター全部の台数が稼働していることが表記されている。これは、建築基準法改正では2時間に1回室内空気を交換することは

待っていた。この密の状態に対し夫は、「空気を交換するくらいいいのでは？」という気持ちのようだ。しかし、表記の具体的な空気の汚染物質の数値を私たち客は実際観ることはできない。これからの時代は、一方的な情報でなく、誰もが

■空気測定の商品登録出願中

現在、私がしていることは、空気測定できるITセンサー(GIA(ジア))を使って室内空気汚染の検査内容を開発している。GIAが測定できる内容は、二酸化炭素、一酸化炭素、

件であるに取り上げられている。R検査で事件性がず店を訪れる。この触感染でゾル感染は実証しエアロ